

グループ学習に関する一考察

A Study on practical training in Group learning

近畿能開大 今園 浩之

Kinki Polytechnic College Hiroyuki Imazono

E-mail: imazono@kinki-pc.ac.jp

1. はじめに

小学生対象の「ものづくり工作教室」(以下、工作教室)が職業能力開発大学校においても毎年多くの小学生が参加して実施されている。当校の実習において、この企画に学生が企画から制作、ものづくり教室の実施までトータルでプロデュースを行う方法について学習させてきた。これに、学生が制作した電子工作キットが採用されて一昨年度に引き続き実施した¹⁾。

2. 検討してきた実習の実施方法

この実習はグループ学習の一環で、卒業制作にあたる「開発課題実習」を円滑に実施するためにはじめた²⁾。

昨年度までの実習は 4 人 1 組のグループにして、2 テーマを考案するようにしていた。この方法は、グループ内で競い合うようにしていた。グループ内で同じような内容であれば、いずれの方が製作時間、部品点数、その他楽しさ、面白さ等に優位なのかを検討させた。一方で異なる 2 つのテーマを設定し、グループとしてのポリシーを前面に現すような方法も行った。

このように、グループで実施することが強調され過ぎて競争をさせることばかりをさせた結果、グループにおける個人の個性がほとんどなくなっているように思われた。そこで、グループにおける個人の活動が重視されると、グループにどのような影響があるかを検討した。

3. 検討した実習の実施方法

グループにおける個人が能力を発揮し、積極

的に関わる方法について検討した。

まず、これまでグループ代表 1 人が行っていたが、持ち回りで毎回の授業開始時に実習時間に実施する内容の報告と終了時間に実施内容を報告させた。

次に、テーマ内容を決定する際に、グループ全員がアイデアを出し合い、また手段について提案してまとめてしまっていたが、これまで表面化することがなかった個人のアイデアを実習期間の最後に個人レポートとしてまとめた上で提出させた。

4. まとめ

工作教室用キットを制作する実習を実施して以下のことが明らかになった。

- 1) テーマ内容と実施している内容をグループ全員が把握することができ、それぞれが責任感を持っていた。
- 2) 個人がグループとの考えの相違を持ちつつも協力してグループとしての結果を示そうとしていた。

個人の意見も尊重しながら実施した結果、昨年度までとは異なる、制作する小学生側の気持ちを考えてキットを提案できたと考えられる。

参考文献

- 1) 山之口, 今園他 : 2013 年秋季第 74 回応用物理学会学術講演会, p.01-027, 2013
- 2) 今園 : 2010 年秋季第 71 回応用物理学会学術講演会, p.18-028, 2010